

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
麻生公務員専門学校 北九州校	平成8年3月4日	富田 博之	〒803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町 3-2-62 (電話) 093-583-3346																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町 3-83 (電話) 0948-25-5999																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化教養専門課程	公務員総合科	平成17年3月9日 文部科学省告示第32号	—																							
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、地域社会の発展に寄与し、国際社会に役立つ公務員を養成することを目的とする。																										
認定年月日	平成 27 年 2 月 17 日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	昼間	1710時間	540時間	1170時間	0時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人	170人	0人	4人	6人	10人																						
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 「教育目標」に準じた総合評価を行う(5段階評価)																							
長期休み	■夏 季: 8月10日～8月15日 ■冬 季: 12月21日～1月8日 ■春 季: 3月30日～4月2日		卒業・進級条件	ア. 指定科目すべての履修・修得 イ. 卒業基準検定の取得 ウ. 出席率が90%以上 エ. 学生としてふさわしい生活態度																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人、保護者への電話連絡等		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 官公庁、地方自治体等(公務員) ■就職指導内容 公務員採用試験合格に向けた筆記試験対策、人物試験対策 民間企業就職希望者への個別面談、人物試験指導 ■卒業生数 82 人 ■就職希望者数 82 人 ■就職者数 70 人 ■就職率 : 85.4 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 85.4 % ■その他 ・アルバイトや進学(夜間専門学校)で次年度も公務員試験挑戦 9名 ・民間企業の就職活動中 3名 (平成 30 年度卒業者に関する 令和元年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 各種公務員試験 (一次合格) 受験者:82名 合格者:81名 (最終合格) 受験者:82名 合格者:78名 ※上記数字は公務員総合科2年生の人数のみ				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
中途退学の現状	■中途退学者 8 名 平成30年4月1日時点において、在学者171名(平成30年4月1日入学者を含む) 令和元年3月31日時点において、在学者165名(令和元年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 公務員最終合格による退学:2名、進路変更:2名、経済的事情:3名、早期入庁後に離職し進路変更:1名 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任、学校カウンセラーによるガイダンス、家庭への電話連絡や三者面談の実施		■中退率 4.7 %																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 ・東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.asoiuku.ac.jp/apoc/subject/total/">http://www.asoiuku.ac.jp/apoc/subject/total/</a>																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近年では行政を取り巻く環境も著しく変化し、公務員として求められる人材も多様化、高度化している。また、公務員採用試験においても人物重視の傾向が顕著となり、一次試験に合格するための学力だけでなく面接試験を突破するための人間力が必要である。このような人材を育成すべく教育課程を編成するにあたっては、自治体における現場の声や求められる人材像、また自治体の課題等について深く学ぶ必要がある。そのためにも、企業や各種団体等と連携し、また本校を卒業して現場で働く学生らを活用して、現場での体験や机上では分かりづらい仕事内容、また現在の自治体の課題等について理解を深めていく。また、ボランティア活動を通じて自治体の課題を体験させ、現時点で自分が自治体のためにできることを考え実践させることで課題解決能力を伸ばす取り組みを行う。

これらを実現するためにも、本校では、自治体に関する人事や自治体の課題等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

自治体に関する人事や自治体の課題、地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした教育課程編成委員会を置く。教育課程編成委員会では、以下に示す事項を審議する。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

教育課程編成委員会の意見は、校長代りが主宰する学科のカリキュラムを決定するカリキュラム会議において、カリキュラムの改善(授業科目の新設、変更や、授業方法の改善・工夫)の参考とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
久塚 純一	北九州市社会福祉ボランティア大学校 校長	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	①
西本 功二	(株)行政マネジメント研究所 代表取締役	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	③
富田 博之	麻生公務員専門学校北九州校 校長	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	
小原 秀史	麻生公務員専門学校北九州校 校長代行	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	
畠中 康夫	麻生公務員専門学校北九州校 事務長	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	
西嶋 久視	麻生公務員専門学校北九州校 教務部 副主任	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	
三藤 宏光	麻生公務員専門学校北九州校 教務部 リーダー	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回、6～7月と2～3月に実施

(開催日時(実績))

平成30年度

第1回 平成30年7月19日 16:30～17:00

第2回 平成31年3月22日 16:30～17:00

令和元年度

第1回 令和元年7月12日 16:30～17:00

(開催日時予定)

第2回 令和2年2月22日 16:30～17:00実施予

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

【令和元年度第2回教育課程編成委員会の議事録より】

企業等委員より下記の意見をいただいた。

①ボランティア大学校にて、ボランティア経験者が災害、防災に関する講義を3～5日に分けて実施している。公安系職種志望者にはこれらの活動に参加しても良いのではないかと。

これらの意見を受けて、以下のように取り組むこととした。

①ボランティア大学校や北九州市社会福祉協議会の活動を調べ、災害・防災に関するイベントや講義が行われている場合には、学生へ案内して積極的に参加するよう促す。

また令和元年度よりカリキュラムが削減され、学生の自由時間が増えたことを報告。この点につき委員からの具体的な提案はなかったものの、学生がどうなるのか質問があった。委員会終了後に教務内でも検討し、空き時間を利用してボランティア活動、職種研究ゼミ活動、補講などを充実させていく案を作成する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 現場での体験や実体験を通して、机上では分かりづらい仕事内容や、公務員の一次試験では聞かれることがない信条・心根の部分での理解を深め、目的意識を明確にする。  
 また、ボランティア体験を通じ現時点で自分が街のためにできることを実践して理解を深める。  
 これらを実現するための授業を企業や各種団体との連携により実施する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
 企業や各種団体と連携し、公務員として求められる資質や学生のうちに取り組むべきことについて意見を聞き、これらを身に付けることを目的とした科目となるよう、授業内容や授業方法、評価方法について事前に打ち合わせを行う。具体的内容としては下記の通り。  
 ・公務員として求められる資質や学生のうちに取り組むべきことについて、自治体の人事にかかわる企業と連携して学生への講話を頂く。  
 ・目指す職種ごとにグループを作り、職種研究を行う。まずはホームページ等で下調べを行い、その後に各官庁へ班ごとにアポイントメントを取り、職員の方から直接業務説明を聞き、取り組みを学ぶ。その結果を班内で取り纏め、レポートおよびパワーポイント資料を作成・提出させ、クラス内で発表する。  
 ・ボランティアセンターとの連携によりボランティアに関する理解を深めるための講義を実施。その後は各学生が自主的にボランティアへ参加し、その結果をレポートとして提出させる。  
 ・本校を卒業し公務員として現場で働いている学生と連携し、職場での実体験や学生のうちに身に付けておくべきこと、取り組んでおくべきことを聞かせる。また、話を踏まえて学生間でディスカッションを行い、理解を深める。  
 ・評価については、研究発表とレポートの総合評価とする。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
公務員リテラシー I (前期)	各自治体等の職種研究や職場訪問等を行うことで職業観を養い、またボランティア活動の意義など社会貢献について学ぶ。	(株)行政マネジメント研究所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針  
 「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に基づき、計画的に教員を研修に参加させる。  
 研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。  
 公務員分野においては、公務員採用試験についての知識やスキルを習得するため、官庁や自治体が実施する各種説明会や各種団体の方による講習会等へ、積極的に教員を参加させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名：「初級本科研修」(連携企業等：株式会社実務教育出版)  
 日程：令和元年1月31日(木)・2月1日(金) 対象：教員  
 内容：実務教育出版連携校間での情報共有、本年度の公務員試験結果の振り返り、現職公務員からの講話

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 研修名：「インストラクショナルデザイン II」(連携企業等：一般社団法人全国専門学校教育研究会)  
 日程：平成30年8月29日 9:00～17:30 対象：教員  
 内容：育成人材像に基づいた体系的カリキュラムの構築を修得する。  
 3ポリシーについて、学科目標・教科目標の整理、学科カリキュラムの見直し・改善。

研修名：「コーチング実践」(連携企業等：組織デザイン・ラボ)  
 日程：平成30年9月5日 16:00～17:30 対象：教員  
 内容：学生のやる気を引き出し、自発的な行動を起こさせる学生支援スキルを高める。  
 学校における学生・保護者との対応事例を使い、コーチング手法を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名：「初級本科研修」(連携企業等：株式会社実務教育出版)  
 日程：令和2年2月上旬 対象：教員  
 内容：実務教育出版連携校間での情報共有、本年度の公務員試験結果の振り返り、現職公務員からの講話

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 研修名：「カウンセリング I」(連携企業等：日本交流分析協会)  
 日程：平成31年4月24日 16:00～17:30 対象：新任教員  
 内容：学生との話し方、面談の仕方、指導の仕方の基本的なルール、注意点を学ぶ。

研修名：「コーチング実践」(連携企業等：組織デザイン・ラボ)  
 日程：令和2年2月19日 13:30～17:30 対象：教員  
 内容：学生のやる気と能力を引き出すコーチングの基本スキル(傾聴・質問・承認)について、ロールプレイングを通して学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教員の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の順守、学内規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

【令和元年度学校関係者評価委員会の議事録より】

「教育環境」の項目について、地震対策のマニュアルがあるか、そして教職員に周知徹底しているか委員より質問があった。麻生塾内で災害時マニュアルが作成され、教職員内でも共有している旨を伝えたが、非常勤講師にまで十分に共有できるとはいえない状況であった。そこで委員より、各教室内にマニュアルを設置し、有事の際に教室にいる教員が速やかに対応できるような仕組みを作ってはどうかとの意見を頂いた。

そこで、現在準備しているマニュアルを印刷し、各教室内へ設置することを検討。また改めて教職員内で災害時のマニュアルを確認することを徹底した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
久塚 純一	北九州市社会福祉ボランティア大学校 校長	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	企業等委員
西本 功二	(株)行政マネジメント研究所 代表取締役	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	企業等委員
堀田 義高	福岡県立八幡南高等学校 校長	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	高等学校校長
野口 美穂	公務員総合科在校生 保護者	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	保護者代表
堀田 由美	地域住民代表	H31.4.1～R2.3.31(任期1年)	地域代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/apkc/2019/hvoka.pdf>

公開時期: 令和1年7月22日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学生便覧))

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/apoc/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 公務員総合科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			政治経済Ⅰ (前期)	公務員採用試験に出題される政治・経済について学び、また確認のため演習を行う。	1前	30	2	○	△		○		○	○	
○			日本史Ⅰ (前期)	公務員採用試験に出題される日本史について学び、また確認のため演習を行う。	1前	30	2	○	△		○		○		
○			世界史Ⅰ (前期)	公務員採用試験に出題される世界史について学び、また確認のため演習を行う。	1前	30	2	○	△		○			○	
○			地理Ⅰ (前期)	公務員採用試験に出題される地理について学び、また確認のため演習を行う。	1前	15	1	○	△		○		○		
○			理科Ⅰ (前期)	公務員採用試験に出題される理科(物理・生物・地学・化学)について学び、また確認のため演習を行う。	1前	15	1	○	△		○			○	
○			数学Ⅰ (前期)	公務員採用試験に出題される数学について学び、また確認のため演習を行う。	1前	15	1	○	△		○		○		
○			文章理解 (現代文)Ⅰ (前期)	公務員採用試験に出題される文章理解(現代文)について学び、また確認のため演習を行う。	1前	15	1	○	△		○			○	
○			判断推理Ⅰ (前期)	公務員採用試験に出題される判断推理について学び、また確認のため演習を行う。	1前	30	2	○	△		○		○		
○			数的推理Ⅰ (前期)	公務員採用試験に出題される数的推理について学び、また確認のため演習を行う。	1前	30	2	○	△		○		○	○	
○			知能科目演習Ⅰ (前期)	他授業で学んだ知能系科目のスキルをもとに、類似問題や過去問題の演習を行う。	1前	30	2			○	○		○		
○			知識科目演習Ⅰ (前期)	他授業で学んだ知識系科目の知識をもとに、類似問題や過去問題の演習を行う。	1前	15	1			○	○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			総合演習Ⅰ (前期)	模擬試験を実施し、各授業で学んだ知識を総合的に復習すると同時に、時間配分など本試験に近い実践的な感覚を身に付ける。	1前	30	2		○		○		○		
○			適性試験・ 一般教養対策 Ⅰ (前期)	公務員採用試験で課される適性試験の問題を毎日実施し、また各授業で学んだ知識を確認するためのテスト等を行う。	1前	75	5		○		○		○		
○			公務員リテラ シーⅠ (前期)	各自治体等の職種研究や職場訪問等を行うことで職業観を養い、またボランティア活動の意義など社会貢献について学ぶ。	1前	15	1	△	○		○	△	○	○	○
○			GCBⅠ	麻生塾全体で推進する「感謝と志」をテーマとして、社会人としてのマナー教育や職業観などについて学ぶ。	1前	15	1	○			○		○		
○			WordⅠ	Wordの基本操作について学ぶとともに、タイピング練習、検定試験に向けて問題演習を行い、検定試験合格を目指す。	1前	15	1	△	○		○		○	○	
○			政治経済Ⅰ (後期)	公務員採用試験に出題される政治・経済について学び、また確認のため演習を行う。	1後	30	2	○	△		○		○	○	
○			日本史Ⅰ (後期)	公務員採用試験に出題される日本史について学び、また確認のため演習を行う。	1後	15	1	○	△		○		○		
○			世界史Ⅰ (後期)	公務員採用試験に出題される世界史について学び、また確認のため演習を行う。	1後	15	1	○	△		○			○	
○			地理Ⅰ (後期)	公務員採用試験に出題される地理について学び、また確認のため演習を行う。	1後	15	1	○	△		○		○		
○			理科Ⅰ (後期)	公務員採用試験に出題される理科（物理・生物・地学・化学）について学び、また確認のため演習を行う。	1後	15	1	○	△		○			○	
○			文章理解 (現代文)Ⅰ (後期)	公務員採用試験に出題される文章理解（現代文）について学び、また確認のため演習を行う。	1後	15	1	○	△		○			○	
○			判断推理Ⅰ (後期)	公務員採用試験に出題される判断推理について学び、また確認のため演習を行う。	1後	30	2	○	△		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			数的推理Ⅰ (後期)	公務員採用試験に出題される数的推理について学び、また確認のため演習を行う。	1後	30	2	○	△		○		○	○	
○			知能科目演習Ⅰ (前期)	他授業で学んだ知能系科目のスキルをもとに、類似問題や過去問題の演習を行う。	1後	30	2		○		○		○		
○			知識科目演習Ⅰ (前期)	他授業で学んだ知識系科目の知識をもとに、類似問題や過去問題の演習を行う。	1後	15	1		○		○		○		
○			人文科学演習Ⅰ	知識系科目のうち「日本史」「世界史」「地理」について、総復習を行うと同時に類似問題や過去問題の演習を行う。	1後	15	1		○		○		○	○	
○			総合演習Ⅰ (後期)	模擬試験を実施し、各授業で学んだ知識を総合的に復習すると同時に、時間配分など本試験に近い実践的な感覚を身に付ける。	1後	30	2		○		○		○		
○			適性試験・一般教養対策Ⅰ (後期)	公務員採用試験で課される適性試験の問題を毎日実施し、また各授業で学んだ知識を確認するためのテスト等を行う。	1後	75	5		○		○		○		
○			検定対策	ビジネスマナー検定の内容をもとに、社会人として必要なマナー、スキルを学ぶ。	1後	15	1	○	△		○		○	○	
○			公務員リテラシーⅠ (後期)	各自治体等の職種研究や職場訪問等を行うことで職業観を養い、またボランティア活動の意義など社会貢献について学ぶ。	1後	30	2	△	○		○	△	○	○	
○			作文試験対策Ⅰ	公務員採用試験で課される作文について、文章の書き方や構成など作文の基本を学び、様々なテーマに対して作文を書く練習をする。	1後	15	1	○	△		○			○	
○			ExcelⅠ	Excelの基本操作について学ぶとともに、検定試験に向けて問題演習を行い、検定試験合格を目指す。	1後	15	1	△	○		○		○	○	
○			春期集中講座	1年次の総復習を実施。また人物試験に向けて自己分析や面接カードの記入を行い、模擬面接を行う。	1後	45	3	○	△		○		○	○	
○			政治経済Ⅱ	1年次に学んだ政治・経済を復習し、また問題演習を通じて知識の定着を図る。	2前	30	2	△	○		○		○	○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			日本史Ⅱ	1年次に学んだ日本史を復習し、また問題演習を通じて知識の定着を図る。	2前	15	1	△	○		○		○		
○			世界史Ⅱ	1年次に学んだ世界史を復習し、また問題演習を通じて知識の定着を図る。	2前	15	1	△	○		○			○	
○			地理Ⅱ	1年次に学んだ地理を復習し、また問題演習を通じて知識の定着を図る。	2前	15	1	△	○		○			○	
○			理科Ⅱ	1年次に学んだ理科（物理・化学・生物・地学）を復習し、また問題演習を通じて知識の定着を図る。	2前	15	1	△	○		○			○	
○			文章理解（現代文）Ⅱ	1年次に学んだ文章理解（現代文）を復習し、また問題演習を通じて知識の定着を図る。	2前	15	1	△	○		○			○	
○			判断推理Ⅱ	1年次に学んだ判断推理を復習し、また問題演習を通じて知識の定着を図る。	2前	30	2	△	○		○			○	
○			数的推理Ⅱ	1年次に学んだ数的推理を復習し、また問題演習を通じて知識の定着を図る。	2前	30	2	△	○		○			○	○
○			作文試験対策Ⅱ	公務員採用試験で課される作文について、文章の書き方や構成など作文の基本を学び、様々なテーマに対して作文を書く練習をする。	2前	15	1	△	○		○			○	
○			知識科目演習Ⅱ	社会科学・人文科学・自然科学の知識系分野煮ついて、分野別の過去問題演習を通じて、弱点の克服や頻出分野の総復習を行う。	2前	15	1		○		○			○	○
○			知識・知能科目演習Ⅱ	分野別の過去問題演習を通じて、弱点の克服や頻出分野の総復習を行う。	2前	30	2		○		○			○	○
○			総合演習Ⅱ	模擬試験を実施し、各授業で学んだ知識を総合的に復習すると同時に、時間配分など本試験に近い実践的な感覚を身に付ける。	2前	45	3		○		○			○	○
○			総合演習Ⅱ（外部模試）	模擬試験を実施し、各授業で学んだ知識を総合的に復習すると同時に、時間配分など本試験に近い実践的な感覚を身に付ける。	2前	45	3		○		○			○	○



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			過去問題演習	実際の公務員採用試験で出題された過去問題をもとに演習を繰り返す。	2前	45	3		○		○	○			
○			一般教養演習Ⅱ	公務員採用試験で課される科目のうち、授業で行うことのできない問題や科目を学び、また知識系科目の練習問題を行う。	2前	75	5		○		○		○	○	
○			教養演習Ⅱ	過去の公務員採用試験の問題を一部抜粋したミニテスト等を用いて演習を行い、また解説講義を行って知識定着を確認する。	2前	45	3		○		○		○	○	
○			適性試験・一般教養対策Ⅱ	公務員採用試験に出題される適性試験の問題を毎日実施し、また授業の復習として確認テスト等を行い知識の定着を図る。	2前	75	5		○		○		○		
○			公務員リテラシーⅡ	就職年次として職業理解を深めるとともに、人物試験に向けて自己分析や書類の記入練習、面接練習などを行う。	2前	45	3	○	△		○		○	○	
○			直前演習・模擬試験Ⅱ	過去に実施された公務員採用試験問題を解き、解説講義を通じて総復習を行う。	2後	195	13		○		○		○	○	
○			PCⅡ	1年次に習得したWord・Excelスキルを更に向上させ、より上位の検定合格を目指す。	2後	30	2	△	○		○		○	○	
○			GCBⅡ	麻生塾全体で推進する「感謝と志」をテーマとして、社会人としてのマナー教育や職業観などについて学ぶ。	2後	15	1	○	△		○		○		
○			社会実習Ⅱ	社会人として必要な生活常識やビジネスマナーの講義、また施設見学や講演会等を通じた自治体の政策・現状の理解を促進する。	2後	15	1	○	△	△	○		○	○	
合計			56 科目		1710		単位時間 ( 114 単位 )								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
ア. 指定科目すべての履修・修得	1学年の学期区分	2 期
イ. 卒業基準検定の取得		
ウ. 出席率が90%以上	1学期の授業期間	15 週
エ. 学生としてふさわしい生活態度		

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。